



平成二十四年度

わが家の すこやか日記



泣いたり笑ったり、時にはおこったりと子育ては日々ドラマの連続です。家庭教育啓発冊子「わが家のすこやか日記」は、家族のふれあいや子育てに関するエピソード等、お寄せいただいた作品のうち、三十四作品を冊子にまとめたものです。

子どもから高齢者の皆様よりお寄せいただいた作品には、家族への愛情や感謝、あたたかい心と心の通い合い、それぞれの家庭のルールなど、すばらしい家族模様が描かれています。

この冊子を通して、子育て中の方はもちろん、多くの方に、子育てのすばらしさや、家族の絆の大切さなどをお届けできたらと願っています。

まずは、各作品をじっくりと味わっていただき、それぞれの家族の様子や思いを心で感じ取っていただきたいと思います。

そして、御家族や御友人と、感想を語り合ってください、そこから、それぞれの御家庭のアイデアあふれる新たな取組が始まることを期待しております。

★こんな活用方法は いかがでしょうか。

- わが家のルール等について、親子で語り合う際の話題として
- 子育て広場等の親子が集まる場で、子育てについて語り合う際の資料として
- PTA主催の懇談会など、保護者同士が家庭教育について語り合う場での資料として
- 道徳・家庭科等の授業などで活用する資料として



● 幼児児童生徒の部

- | | | | | | | |
|---|------|--------------------|------------|------|-----------|----|
| ★ | (1) | だいすきなだっこ | 岡山市立旭竜小学校 | 第一学年 | 勢野 菜夏さん | 5 |
| ★ | (2) | 小さいお母さん | 矢掛町立矢掛小学校 | 第四学年 | 室 萌花さん | 6 |
| ★ | (3) | 手をにぎり、家族で送ったおじいちゃん | 岡山市立高島小学校 | 第四学年 | 小野田 大樹さん | 7 |
| ★ | (4) | ぼくの弟 | 岡山市立津島小学校 | 第五学年 | 平 松 亮介さん | 8 |
| ★ | (5) | 大変な一日 | 岡山市立竜之口小学校 | 第六学年 | 原 健 人さん | 9 |
| ★ | (6) | 小さな思いやり | 県立岡山操山中学校 | 第一学年 | 福 野 雄斗さん | 10 |
| ★ | (7) | ありがとう | 県立津山高等学校 | 第一学年 | 鳥 取 岳 広さん | 11 |
| ★ | (8) | 誕生日 | 県立倉敷商業高等学校 | 第一学年 | 中 塚 恵 さん | 12 |
| | (9) | ぼくのおとこ | 第二さくら保育園 | さくら組 | まつもとたいしさん | 13 |
| | (10) | ママのまほう | 岡山市立横井小学校 | 第一学年 | 善 木 玲偉さん | 13 |
| | (11) | だいすきなぼしよ | 里庄町立里庄西小学校 | 第一学年 | 鈴 木 杏望さん | 14 |
| | (12) | ぼくのミニジャイアン | 岡山市立横井小学校 | 第三学年 | 善 木 累偉さん | 14 |
| | (13) | ぼくの兄 | 岡山市立津島小学校 | 第五学年 | 板 谷 顕さん | 15 |
| | (14) | 兄の母の日のプレゼント | 岡山市立三勲小学校 | 第五学年 | 坪 倉 裕 里さん | 15 |
| | (15) | そとじ | 美咲町立柵原西小学校 | 第五学年 | 藪 木 莉野さん | 16 |
| | (16) | おじいさんと僕の会話 | 里庄町立里庄西小学校 | 第六学年 | 安 田 匡希さん | 16 |
| | (17) | 心の言葉 | 里庄町立里庄中学校 | 第一学年 | 鈴 木 萌梨さん | 17 |
| | (18) | ありがとう | 美咲町立柵原中学校 | 第一学年 | 藪 木 香野さん | 17 |
| | (19) | 「行こうよっかす。」 | 県立岡山操山中学校 | 第一学年 | 岡 崎 朱 音さん | 18 |

★は、優秀作品として選ばれた作品です。
ページ

- (20) 母のいたずら
県立岡山操山中学校 第二学年 緒方綾子さん 18
- (21) 「ありがとう」から生きること
県立岡山操山中学校 第二学年 傍田真歩さん 19
- (22) わが家のお母さん
県立岡山操山中学校 第二学年 渡邊真由さん 19
- (23) 笑顔
岡山市立吉備中学校 第三学年 寺谷茉莉子さん 20
- (24) ありがとう
岡山市立吉備中学校 第三学年 犬山和希さん 20
- (25) 笑顔の魔法
県立津山高等学校 第一学年 古井心子さん 21
- (26) 私の母に
県立興陽高等学校 第一学年 湯本麻里奈さん 21
- (27) お弁当
県立倉敷商業高等学校 第一学年 樋口由希さん 22
- (28) 無器用な父
県立岡山南高等学校 第二学年 田中知可子さん 22
- (29) 快適に過ごす
県立岡山南高等学校 第二学年 森下樹奈さん 23
- (30) 誕生日の「ありがとう」
県立瀬戸南高等学校 第三学年 林里奈さん 24

● 一般の部

- (31) リュックサックの思い出
津山市 豊岡慶子さん 26
- (32) 二十歳の手紙
吉備中央町 山本春美さん 27
- (33) いってらっしゃい、気をつけて
瀬戸内市 岡田久史さん 28
- (34) 家族
岡山市 向井香織さん 28

● 特別賞

- 優秀学校賞 津山市立阿波小学校
- 和気町立石生小学校
- 岡山市立後楽館中学校



幼児児童生徒の部

◆うれしい約束賞◆

だいすきなだっこ

わたしはだっこされるのが大好きです。だけど、おかあさんはおなかにあかちゃんがいるからだっこしてくれませんか。そのかわり、おとうさんがたくさんだっこしてくれませんか。わたしが五十さいになるまでだっこすると、おとうさんとやくそくをしました。だからおとうさんは、トレーニングをいまからがんばっています。やくそくのときまでだっこしてくれたらうれしいです。おとうさんががんばってね。



岡山市立旭竜小学校 第一学年 勢野 菜夏さん

審査員より

だっこしてもらいたいなあという気持ちをわかって、すてきな約束をしてあげたすてきなお父さん。菜夏さん、たくさんだっこしてもらってくださいね。

◆がんばれー小さいお母さん賞◆

小さいお母さん



私のお父さんは、仕事でいつも帰りがおそい。だから、おふろは、お母さんが、弟、妹の順番におふろに入れる。妹は、まだ一さい。おふろの時間は、私が小さいお母さんになる。おふろあがりの妹をタオルでふいて、オムツをはかせて、パジャマに着がえさせる。まだ、よちよちあんだけけれど、とてもげ足が速いので、いつもくたくたになってしまつ。お母さんが、おふろからあがってくると、

「ありがとう。小さいお母さん。」

と言ってくれる。とてもつかれるけれど、また、おふろのお手つだいをしようと思つ。

「小さいお母さん。」

私は、このよび方をとても気に入っている。

矢掛町立矢掛小学校 第四学年 室 萌花さん

審査員より

家族の一員として、毎日大奮闘の萌花さんの様子が目に浮かぶようです。家族の一員として、力いっぱいがんばる小さいお母さんを応援しています。

◆ありがとうございます がんばったね おじいちゃん賞 ◆

手をにぎり、家族で送ったおじいちゃん

ガンだったおじいちゃんは、在宅浴りょうをしていました。とうとうなくなる日、おじいちゃんを大好きなぼく達は、手をにぎったり、体をさすったりしてあげながら、

「ありがとうございます。おじいちゃん。」

と、言っで見送りました。おじいちゃんは、ねむるように天国に行きました。

「がんばって生きてくれてありがとうございます。おじいちゃん。」



岡山市立高島小学校 第四学年 小野田 大樹さん

審査員より

きつと、とっても優しいおじいちゃんだったのでしょね。大樹さんの感謝の気持ちが伝わって、こんなことできよう。

◆仲良しサッカー兄弟賞◆

ぼくの弟

ぼくの弟はしょうがいがあり、上手く歩けません。でもサッカーが好きで、よくぼくとあそびます。最初は、けるだけでころんだりしてたけど毎日学校から帰って、二人でやっているとうちに、どんどん上手になってきました。弟はサッカーの試合をテレビで見ると練習しているとうちにドリブルやキーパーも出来るようになっていたのでびっくりしました。これからもぼくがコーチになってサッカーを教えてあげたいです。



岡山市立津島小学校 第五学年 平松 亮介さん

審査員より

弟への愛情たっぷりのお兄ちゃんコーチ。きっととっても仲良しなんでしょうね。これからも二人でサッカーをがんばってくださいな。

◆家族のチームプレイ賞◆

大変な一日

お母さんが急に熱を出した。すぐぐんぐんと悪化だった。すると四才の妹が氷枕を出して、タオルで包んで、母さんの頭にのせた。母さんは、びっくりにした顔で笑って

「ありがとっ。」

と言った。僕は、「しまったー、やられたー。」と後悔した。でも僕は、洗たく物をたたんだ。母さんがにっこりして、

「助かるわ。」

と言った。この日のご飯は、父さんが用意した。そして三人で協力して一日を過ごした。母さんの大変さがわかった。次の日、母さんは、熱が下がり、にっこり元気ないつもの母さんだった。ぼくは、うれしかった。

〔補足説明〕

お母さんは、いつも家の仕事をハキハキとやっています。たまには、いっしょに遊びますが、いつもは、すくなく働いています。

岡山市立竜之口小学校 第六学年 原 健人さん

審査員より

妹さんのファインプレーに始まり、家族が力を合わせて家の仕事をがんばった様子がよくわかります。家族みんな、にっこり元気なお母さんが大好きなことが伝わってきますね。

◆気づいた母の優しき愛◆

小さな思いやり

最近、母とのすれ違いが多くなった。夜遅くまで仕事をしている母は、帰宅するたびにことなく疲れているように見え、話をする機会もめっきり減った。そんなある日、寝付けず居間へ出てくると母はそこで僕の服を直してくれていた。知らないうちでも気づかってくれていて、なんだから少し嬉しかった。母のやさしさを改めて感じる事ができた。



県立岡山操山中学校 第二学年 福野 雄斗さん

審査員より

子どもが成長するにつれ、親子の会話が減る時期もあるのかもしれませんが。言葉でなくてもお母さんの愛情がちゃんと伝わっているはずですよね。

◆毎日が感謝で賞◆

ありがとう

僕は中学校を卒業するときに、今までの感謝の気持ちを手紙に書いた。本気で書いた。すると、四、五行目くらいから涙が自然とあふれてきた。毎日毎日ただただ生活してきたけれど、今意識してみれば、本当に両親に支えられた生活だった。毎日毎日、冬の寒い日でも洗濯をしてくれた。毎日毎日、ごはんを作ってくれた。毎日毎日、充実した生活ができるように働いてくれた。父さん、母さん、本当に僕を育ててくれてありがとう。

こんな風に感謝の気持ちを伝えるのは、とても大切なことだ。これから先、まだまだ迷惑をかけることがたくさんあるだろうが、一日一日を精一杯生きて、感謝の気持ちを返していこう。



県立津山高等学校 第一学年 鳥取 岳広さん

審査員より

愛情を注ぎ続けてくれている両親への感謝の気持ちは、高校生になっても、成長への大きなエネルギーになるですね。感謝の手紙を書くこと、大切ですね。

◆誕生日のありがとう賞◆

誕生日

今年、兄が二十歳の誕生日を迎えた。それまでの数年、兄は誕生日のプレゼントは要らないと言って、その度母は寂しいような嬉しいような顔をしていた。すると今年、兄は自分の誕生日に、家族に誕生日のプレゼントを渡してきた。一体どうしたのかと私たちが訊くと、兄は誕生日は祝ってもらったものではなく、生んでもらったことに感謝する日だと思う、と語った。私は驚いた。実は私も同じ考えをしており、中学三年の頃から、誕生日の夜には親に生んでくれてありがとう、と言っている（お金があまりないので物は贈れないが）。普段兄となかなか話さないのだが、やはり兄妹なんだなあ、と実感し、なんとなく嬉しく思う。私はこの家に生まれて良かった。

県立倉敷商業高等学校 第二学年 中塚 恵さん

審査員より

お兄さんとの共通点が「誕生日のありがとう」だなんて、すてきな兄妹ですね。「この家に生まれてよかった。」という言葉が、たくさん家庭で聞かれるといいですね。

ぼくのおじいちゃん

ぼくのおじいちゃんはおじいちゃんです。おじいちゃんはおぼくをつねったり、へんなこえをだしたりしますが、ぼくはだらうきです。なぜかおじいちゃん、ほっぺがもこもこにやだし、ぼくをみたら

「あー。」
ともらうじだつこをしたらおじいちゃんかからいます。おじいちゃんがおおきくなったらなわとびでらうじよにはじたり、けんかしたりしてみたらいます。おじいちゃんはおおきくなつてね。

第二幼稚園保育園 ちゅう組 まつもと たいしさん

ママのまほう

ぼくが、わるいことをすると、らうじもママはからいじゅうに入んします。こわいかおをして「もつ、いらかげんにせられえ。」とひをふきます。ママが、からいじゅうになると、ぼくは、はなせします。だけど、ときどきぼくがさみじとき、くやしとき、かなしいときはそばにきてムギューとしてくれます。ムギューしてもらうとホッとしてなんでもがんばれるきもちになります。ムギューは、ぼくにパワーをくれるまほうのくすりです。ママ、いいこになるから、すつとムギューしてね。

岡山市立横井小学校 第一学年 善木 玲偉さん

ぼくの兄

ぼくの兄は耳が不自由です。ぼくと母と兄で手話を使って話します。ときどき手話しても分からない時があります。そのために手話の本を読んで覚えています。兄のためにも家族全員手話をがんばっています。ちゃんと手話を通じたら兄とよく話せてみんな笑顔になります。



岡山市立津島小学校 第五学年 板谷 顕さん

兄の母のロプレゼント

兄が母にバラをプレゼントした。それは、母の日のためのプレゼントだった。兄は前日にプレゼントをわたした。そのわけはちよっぴりはすかしいのと、前日には、もらえるとは思っていないからおどろかせたかったらしい。バラは、百五十円の小さな、ピンク色のバラだった。母は、うれしそうに花びんにさした。けいたいのマチウケ画面にして、いまでも大事そうにもっている。

〔補足説明〕 バラは、部活帰りに、兄のおごつからで買ったもの。

岡山市立三勲小学校 第五学年 坪倉 裕里さん

そうじ

私は、小学一年生から毎朝そうじをしています。兄も姉もみんなそうじをします。高校生になるとそうじは、しません。学校に行くのに朝早く家を出て、帰りがおそいからです。でも高校生の兄は、父の手伝いや地区の草かりに行きます。私の家族は、みんなで自分のことができるをしています。母が「ありがとう」と言ってくれるのがとてもうれしいです。

〔補足説明〕

六人の兄弟が順番にそうじをしました。そうじの仕方も兄や姉に教えてもらってやっています。

美咲町立柵原西小学校 第五学年 藪木 莉野さん

おじいちゃんと僕の話

おじいさんは体が弱って、病院でねたきりです。僕は、お父さんとよくお見舞いに行きます。行くと、おじいさんはすぐに声をかけてくれます。でも、おじいさんは、ちゃんとしゃべることができません。僕は、いっしょうけんめい、耳を寄せて聞こうとします。それでも、聞こえないのでしっかりと聞きなすきます。でも、聞こえる言葉があります。僕が帰るときに言葉です。

「まさ、ありがとう。」

「また、来るから。」
と僕は答えます。

里庄町立里庄西小学校 第六学年 安田 匡希さん

心の言葉

トントン は、祖母からの合図。夜、私の部屋に電気がついていてる時だけ祖母が一階から合図をくれます。勉強している時には、「頑張っているね。」
 漫画を読んでいる時は、「はやく寝るんだよ。」
 と聞こえます。私も二階からトントンと聞きます。「ありがと。」
 と返します。祖母と私の心の言葉。



里庄町立里庄中学校 第一学年 鈴木 萌梨さん

ありがとう

私の兄は高校三年間毎日学校から帰ってくると、からになったお弁当を出しながら「お弁当ごちそうさん、ありがと。」
 と言っていました。それは母が近くになくても毎日必ず言っていました。「ありがと」という感謝の気持ちをいつも持っていた兄でした。私もそんな人になりたいです。

美咲町立柵原中学校 第一学年 藪木 香野さん

「おじがじい」から生まれるじい

いつからか言えなくなってしまう「おじがじい」。

私は、家族の輪からいつも離れて、一人でいる時間をつくっていた。一人のゆっくりとした時間が好きだった。でも、いつからか、悲しい時間になっていた。本当は言うべき言葉を言わないだけで、こんなにつらい気持ちになるなんて…。思いもしなかったことだった。だけど、お母さんに、

「気づいてあげられなくてごめん。」

と言われた。私から言わなくてはならなかった言葉。

「まほちゃんは生きてるだけですじいだよ。」

と言ってくれたお母さんのあたたかさ。ありがじう。このたった一言から学べた生きること。

県立岡山操山中学校 第二学年 傍田 真歩さん

お父さん

お父さんは大きらいだと思ってました。お父さんは、単身赴任で東京にいます。東日本大震災があったとき、私はお父さんは大丈夫なのかと、とても不安になりました。大丈夫だと知ったときとても、ほっとしました。今までずっと気付きませんでした。私の中でお父さんの存在はとても大きかったのです。これから、お父さんのことを好き…とまでは言えませんが、お父さんに感謝しながら生活していきます。

県立岡山操山中学校 第二学年 渡邊 真由さん

笑顔

私の兄は長い間、反抗期。だから、父や母と全然話さない。だけど、父と母がいなくなると、いつもは見せない笑顔で

「今、勉強とこやこやしてるの。」

と、聞いてくる。兄は頭がいいから、私にわからなかった問題をすぐ解いて、私にわかりやすく教えてくれる。父と母の前でも、この笑顔を見せてくれたらしいの。

岡山市立吉備中学校 第三学年 寺谷 茉有子さん

ありがとう

私はお父さんが大好きです。でも抱きついたりすることがありません。それは私が恥ずかしかったから。お父さんは私の頑張っていることは何でも応援してくれ、イベントがある時はいつも来てくれます。今年の文化祭は仕事があったにも関わらず、私の劇だけ見に来てくれました。劇が無事終わり、やりきった気持ちでいっぱいなのは笑顔で

「よかった。」

と言ってくれたお父さんに抱きつきました。あの時は言えなかったけど、お父さんありがとう。

岡山市立吉備中学校 第三学年 犬山 和希さん

笑顔の魔法

ある週末、わたしはいつも仕事をがんばっているお母さんにサプライズで夕食を作ってあげました。大変でしたが、献立も自分で考えて、心をこめて作りました。お母さんは、私の作った夕食を見てとても喜んでくれました。そして

「ありがとう。とてもおいしかったですよ。」

と喜んでくれました。私はその一言を聞いて、とてもうれしくて、思わず笑ってしまいました。私は、「ありがとう」という言葉は人を笑顔にする「魔法」だと思います。だから私は「ありがとう」という言葉をたくさん使って周りの人を笑顔にしていきたいと思っています。

県立津山高等学校 第一学年 古井 心子さん

私の母に

私の母は、私を生んでくれた母ではありません。私が小学六年生の頃に父と再婚しました。最初は全然受け入れられず、あまり話しもしません。私が小学六年生の頃に父と再婚しました。最三年生の春に弟が生まれました。その時から少しずつ母のすごさがわかりはじめました。昔はバスガイドをしていたり、カメラマンなどいろいろな仕事をしてきてたくさんのお仕事を聞きました。兄が高校に入り、毎日お弁当を作ったり毎日私たちのご飯を作っても大変だったと思います。私も高校に入り、多いときは私と兄、それに父のお弁当も毎朝早くに起きて作ってくれました。毎日迷惑をかけて困らせて言えないけれど、毎日ありがとう。いつか直接言えたらいいなと思います。

県立興陽高等学校 第二学年 湯本 麻里奈さん

お弁当

いつもお昼のお弁当を作るのは私の仕事。朝早くから仕事へ行く母は私の作った弁当を持って行く。あるテストの日、前夜に徹夜したせいで朝起きるのが遅かった私に一番にあいさつしてくれたのは、母の作った弁当だった。私の母にとって、朝はもとも時間がない時。「勉強がんばってたね。頑張つて。」と手紙も添えてあった。ああ、見てくれたんだ。頑張ろう。母の愛が込めた弁当をその日はいつもよりゆっくり食べた。



県立倉敷商業高等学校 第二学年 樋口 由希さん

無器用な父

私の父はとても無器用な人です。そんな無器用な父が一度だけごはんを作ってくれたことがあります。それは私の高校受験前日のことです。その日、私はかさを持っており、一時間程かけて大雨の中を歩き帰りました。そして家にいた父は、「体を冷やすな。」

と一言だけいい、温々のうどんを私に出してくれました。そのうどんの味はいまいちだったけど、とても心が温かくなりました。



県立岡山南高等学校 第二学年 田中 知可子さん

快適に過ごす

私は施設で暮らしているので、一般家庭と比べてルールが多くあります。一日の生活の中を見てもみると、朝起きて全員に

「おはよう。」

と言つ。顔を洗い着がえをする。そして、全員で朝食の準備をし、全員で食事する。学校行く前に、決められたそつじをし、洗濯物をする。二〜四歳の面倒をみて、大きな声で

「いってきます。」

そして

「いただきます。」

を言つ。夜も朝と同じようにする。小学生未満は八時就寝、中高生は十一時就寝。

このように決められたルールの中で生活し、仲間との絆を深め、相手の気持ちを考える。という、学校の集団生活よりも、さらに深く気をつけなければなりません。でも、一人立ちして、社会に出るときは、とても役に立つと思います。ルールの中の自由、私はこの言葉の下で生活しています。

県立岡山南高等学校 第二学年 森下 樹奈さん

誕生日の「ありがとう」

母と二人暮らしの私は、母を大事に出来ているだろうか、母に何かしてあげられているだろうか、とふと考えたことがあります。その日は丁度私の誕生日の前日でした。良いこともなく、気分もふさぎがちだった頃なので、ずっとそんな事を考えていました。誕生日当日。友達が盛大に祝ってくれ、とても嬉しかったです。「おめでとう」をたくさんもらって「ありがとう」をたくさん返しました。少し遅めに家に帰り、普段通りに時間が過ぎて寝るころになった時、私は母に言いました。

「産んでくれて、ありがとう。」

と。母は泣いてくれました。そして、

「ありがとう。」
と私に言ってくれました。私は、ああ、ちゃんと何か出来ていたんだな、と思うことが出来ました。そして、これからも頑張っていこう、と思いました。誕生日の「ありがとう」は特別だな、と思いました。

県立瀬戸南高等学校 第二学年 林 里奈さん

一般の部



◆涙と思い出のリユックサック賞◆

リユックサックの思い出

息子が保育園の年長の時のことです。親子バス遠足の前日も、私が仕事から帰宅したのは九時過ぎ。息子は寝てしまっていました。ボンヤリと部屋に入ったとき見えたのは、息子のリユックサック。自分で用意したんだろうなあ、お弁当用のシートやゴミ袋、おやつもちゃんと入っていました。自分で持ち物の準備など、全くした事がなかった息子。楽しみにしてくれていたんだなあ。忙しくてあまり相手もしてあげられなくてごめんね、と、涙が出ました。今でも息子のリユックを見ると、思い出します。そして明日も頑張ろうと思ひます。



津山市 豊岡 慶子さん

審査員より

お母さんと一緒にバス遠足に行くのがとっても楽しみだったのでしよう。仕事が忙しくても、親子の時間をとるようがんばっているお母さんを応援したくなりますね。

◆二十歳の誓い賞◆

二十歳の手紙

十二月八日、朝、ポストを開けると、切手の貼っていない「おやじ、おかんへ」と書いた息子からの手紙が入っていた。今日は息子の二十歳の誕生日。夜中のうちにこっそり手紙を入れに帰ったようだ。内容は、今までの感謝の言葉と、今現在、周りの人に支えられて頑張っている事が書いてあり、最後に

「二人が思っているような立派な大人になれないかもしれないけど、一生懸命生きていく事を誓います。」

と締めくくってあった。息子にやられた！ 朝から目を赤くしてしまった。

〔補足説明〕 一年前の事なので、もう時効かなと思って応募しました。（息子に怒られるかもしれないので・・・）手紙をせり出してはじめて、名前入りポエム額もプレゼントしてくれました。

吉備中央町 山本 春美さん



審査員より

息子さんを一生懸命育ててこられたご両親の思いは、ちゃんと伝わっているのですね。二十歳の誓いがプレゼントになって、とても喜ばせてあげますね。

らこらこしゃら、気を付けて



中学生の頃、母は出掛けようとする私に「いってらっしゃい、気を付けて。」
「いつも言ってくれました。その時は、
」
「気を付けるのは、あたりまえなのに。」
「思っていた私ですが、今、出掛ける子どもたち」
「いってらっしゃい、気を付けて。」と言っている自分に気がつきました。

〔補足説明〕 先日、実家に帰ったところ、帰ろうとする私に母は「気を付けて。」と言いました。

瀬戸内市 岡田 久史さん

家族

子供達も大きくなり、一緒に過ごす時間も少なくなってきたわが家ですが、年四回の墓参りと年三回来て下さるお坊さんのお経を聞く時だけは全員集合するという暗黙のルールになっています。再婚である私にとっては二つめの家族です。心の中にある大きな暗闇である亡くなった長男の墓前で手を合わせてくれ一緒に語りかけてくれる事に心から感謝しています。主人の両親も私の父も亡くなっており、空の上から見守ってくれています。私のもう一度母親として、社会人としてがんばっていけるのは、亡くなった家族や今いる家族の支えあってこそです。人は生きていながら生かされている…その事に感謝の日々です。

〔補足説明〕 一人の男の子の母として当たり前前に生きてきた私ですが、交通事故で長男を亡くしてから生活が一変しました。その後今の主人と出会い長女・次女に恵まれ、当たり前前のすばらしさと家族のいるありがたみを知りました。だからがんばって生きていきます。

岡山市 向井 香織さん

◆特別賞◆

★ 優秀学校賞

(学校ぐるみでの取組に対して)

津山市立阿波小学校

和気町立石生小学校

岡山市立後楽館中学校



わが家を振り返って、エピソードをメモしておきましょう。

A decorative rectangular frame with a border of stars and hexagons. Inside the frame are six vertical dotted lines for writing.

発行・監修

おかやま子ども応援推進委員会
地域家庭教育推進部会

事務局 >>> 岡山県教育庁生涯学習課

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6

TEL (086) 226-7597



岡山県「ぼっちり！モグモグ」生活リズム向上
マスコットキャラクター



岡山県教育庁生涯学習課のホームページから、この冊子をダウンロードすることができます。



ホームページ **岡山県 生涯学習課** で **検索** クリック！